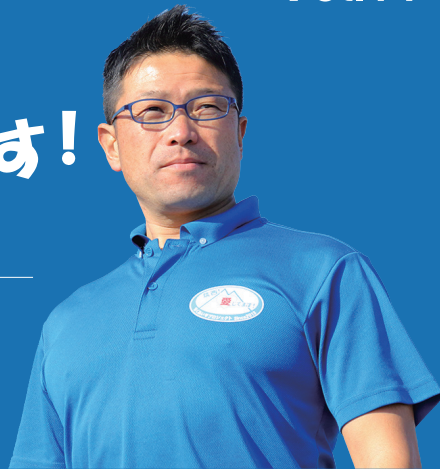


議会報告・活動報告

筑西市議会議員 経済土木委員長

みさわ 隆一

筑西！
愛しています！



皆さまには日頃より大変お世話になっております。おかげさまで私、みさわ隆一は議員生活3期11年目に入り、忙しく毎日の活動を続けさせていただいております。今回も令和6年度定例会での一般質問及び研修や日頃の活動などについて議会報告・活動報告を作成いたしましたので皆さまにご報告させていただきます。

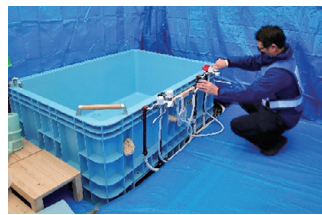
現在、総人口の中の割合が多い「団塊の世代」の方々が全員75歳以上(後期高齢者)になり、筑西市の高齢化率(65歳以上)も33%を超え、超高齢化社会に突入しています。人口97,000人、世帯数39,700、人口が減少しているのに世帯数が増加している背景には高齢者世帯や独居世帯が増加しているという現実があります。令和5年度の出生数727,000人と過去最少で少子化が加速する中、すべての世代で本当にこれまでの「当たり前の普通の生活」を営むためには「市民＋行政＋議会」が連携し、課題解決に向け本気で取り組む必要があります。

令和6年1月 石川県 輪島市門前町 能登半島地震 災害支援ボランティア

「能登はやさしや土までも」この言葉のとおり人柄が優しく温かい人々が住む農業・漁業が盛んな能登地方。元旦に発生した巨大地震で現地では、おびただしい数の倒壊家屋や寸断された道路、海岸線や港は海底が隆起し、それが何キロも続いている状態でした。



もともと生活道路の数が限られており道路の寸断は隣の町にさえも移動ができず、救援車両や重機の運搬に手間取るのも現地に行くと理解できます。そんな中、私も先発隊のNPO法人Vネットに合流し、被害の大きかった石川県輪島市門前町に入り、長期の避難生活には欠かせない入浴施設と洗濯施設の設置・点検業務を行いました。



被災後は断水や電気の遮断により、入浴も洗濯もできず、被害の比較的小さい金沢市まで車で片道数時間をかけて済ませる状態でした。長期の避難生活では汚れや臭いは被災者の精神的負担につながります。

阪神淡路大震災から30年、東日本大震災から14年。南海トラフ巨大地震の発生可能性が高まる今、情報力・救出力・復旧作業力の強化など防災への備えを連携して進める必要があります。

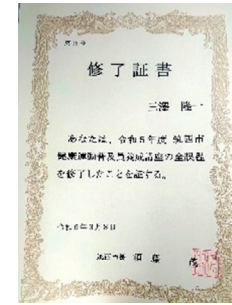
県西フードパントリー フードロス対策と支援が必要なご家庭に！

今年で4年目をむかえる「県西フードパントリー」では、年3回、3月・8月・12月に配布会を開催しております。また年間を通し市民環境部環境課、社会福祉協議会と連携しフードドライブによる回収や、各団体、企業、個人からご提供いただく食料品や日用品を仕分けし、福祉施設やご家庭に提供しています。フードロス対策のためにも膨大な廃棄食材を減らし、同時に必要とする方々を支援する福祉の観点からも今後も各方面と連携して継続してまいります！



健康づくりのための健康運動普及員活動！ 誰一人取り残さない！支えるのは我々の責任です！

現在、高齢化が進む今、健康的な生活でフレイル予防！厚生労働省が世界中の研究をまとめたところ、運動量や日常での活動量が多いほど生活習慣病発症率や死亡率、病気・ケガのリスクが低いというデータが出ています。あまり難しく考えずに、まずはすき間時間にストレッチやウォーキング、スクワット、階段を使うなど、自重運動からでも十分効果が出ます！お知らせ版ピープル裏面の健康運動教室スケジュール(予約不要)と一緒に楽しく運動しませんか！



令和6年10月 連合茨城下館地区協議会「列島クリーンキャンペーン」

市内の各産業別で働く仲間の皆さまと共に、今年も恒例となる「列島クリーンキャンペーン&フードドライブ事業」を行いました。地元の美しい五行川の自然環境保護を維持するために、草むらや土手に分け入り、公園内の清掃活動を和気あいあい汗をかきながら多くの空き缶やゴミを回収することが出来ました！



筑西こども食堂「有りの実」 市内各地での新たな子ども食堂の立ち上げを支援！

筑西市で初めて立ち上がった「こども食堂 有りの実」は、9年目をむかえ、今や老舗的なこども食堂になりました。新たな子ども食堂の立ち上げへの相談や運営のサポートにより市内各地区に子ども食堂が次々誕生しています。

こども食堂の数も全国で10,000箇所を超え、近年は子どもだけでなく地域の高齢者も世代を超えて一緒に楽しく食事をしながら交流の場としての役割も担っています！



ちくせい寺子屋 だれもが同じスタートラインに立てるよう支援する！

家庭の事情で塾に行けない子や身近に学べる環境が無い子ども達のために立ち上げたのが「ちくせい寺子屋」です。子ども達はみんな自分の夢や希望を持っています！ここは何といっても教職を退職されたベテランの先生方が子ども達のこころの声まで理解してくださり、一人一人に寄りそった自由に学べる環境を提供してくれています。なんと今年で10年目。「誰もが同じスタートラインに立てるよう」子ども達の未来を支援してまいります！ ※令和7年3月に卒業した中学生が全員無事に希望校に合格いたしました。

令和7年1月 子ども達は地域の未来そのもの！ 「子どもたちが輝ける学校づくり」教育懇談会

次代を担う子ども達の健やかな成長は誰もが願うところです。すべての子ども達が平等で良質な学校教育を受けられる環境づくりのために、教職員が学校現場での「業務に集中できる環境づくり」や「業務の適正化」、「教職員定数の改善や業務を支援する学校スタッフの充実」などについて学校教職員・PTA・自治体議員によるグループ協議を行いました。

誰かが休むと代わりがいらない教育現場。体調が悪くても休めず療休者数が過去最多という現実。これでは子ども達の心身にも影響が出て不思議ではないと感じました。国・県・市が連携して早急な対応策が必要です。



被害者も加害者も出さないために！ 朝の立哨ボランティア活動

子どもは地域の宝といわれます。私は子ども達は地域の未来そのものだと思っています！毎朝、子ども達の元気な姿にエネルギーをもらいながら、地域ボランティア、PTA・保護者、教職員等みなさんと連携し、子ども達の安全を守っています。またドライバーの皆さんも家族がいます。「被害者も加害者も出さない」ことが最善です。おかげさまで13年目に入ります。これからも大切な子ども達を見守り続けます。



自然災害に対する筑西市の被害想定は？

令和6年 第1回 3月定例会

三澤	被害の大きかった石川県輪島市門前町に入り支援活動を行ったが、想像を超える被害状況であった。震災後、初期対応の後れが問題視されているが、本市における自然災害に対する被害想定は？
市民環境部 長	地域防災計画において、関東大地震クラスの震度7を被害想定としている。水害に対しても最大規模の降雨が河川流域に降った場合を想定し防災計画を策定している。
三澤	建物が倒壊し、目の前に救出を待つ人々がいても何もしてあげられない現実。被災後まず必要になるのがマンパワーや重機などによる人命救助である。被害想定に対し各方面との災害協定は結んでいるか？
市民環境部 長	県内全市町村や友好都市と相互応援協定を結び、各スーパーとの飲料水、食料への支援。レンタル業者とは仮設トイレや資機材、建設業協会とはインフラ復旧支援、社会福祉法人とは要配慮者支援などの協定を結んでいる。

みさわの視点



平成27年関東・東北豪雨水害での船玉・伊佐山地区でのボランティア活動から始まった私の災害支援活動。熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨、千葉台風15号被害、日立市・高萩市河川氾濫、そして今回の能登半島地震と全国の被災地での活動の中で被災者の悲痛な声を聴き、悲惨な現場での活動を通して感じることは、日頃からの防災人材や避難所・備蓄品、重機・資機材等の確保と各業界・団体との災害協定締結こそ、河川も多く幾度も水害にあった我が市には必要です。

小中学校の部活動、登下校を含めた熱中症対策は？

令和6年 第2回 6月定例会

三澤	令和6年4月から熱中症特別警戒アラートの運用が始まった。これまでの熱中症対策と高齢者への情報伝達法は？
保健福祉部 長	対策として、ポスターや広報紙、防災無線またSNSにより情報を発信している。包括支援センターや民生委員を通じ声掛けや見守りを行っている。
三澤	緊急時に直ぐに避難できるよう、店舗などと連携はとれているか。また小中学校の部活、登下校を含めた教育環境下における熱中症対策は？
保健福祉部 長	市内9か所の公共施設にクーリングシェルターを設置した他、民間からも問い合わせがあり、今後、連携についても検討しています。
教育長	対策として、涼しい体操服や帽子を勧奨し、ネックタオルや日傘、こまめな水分補給を指導している。熱中症の疑いがある場合は医療機関への救急搬送を周知徹底している。

みさわの視点



令和6年4月から熱中症警戒アラートの一段上として、特別警戒アラートの運用が始まりました。高齢者や子ども達、外で働く皆さんを守るためにも、市の公共施設や民間施設に協力を求め、暑さから避難できるクーリングシェルターに警戒アラート発令後すぐに避難できるような対策が必要です。現在、県内の公立小中学校では体育館のエアコン設置が約1割。小学校は全において未整備。昨年夏の平均気温が歴代1位の高温である。市内6か所の中学校では、体育館はいつ起こるかかわからない水害や震災時の指定避難所であり、現在の移動式のスポットクーラー2台と扇風機では到底あの暑さをしのぐことは不可能です！全校に導入した水戸市のように総務省の緊急防災・減災事業債の活用も視野に入れながら早急に検討する必要があります。

夏休み明けが要注意！児童生徒の体調管理への対処法は？

令和6年 第3回 9月定例会

三澤	夏休み明けの9月から10月は統計上、子ども達の自殺者数が一番多い時期であり、今この瞬間も苦しんでいる子ども達はいる。児童生徒の体調管理についてどのように対処しているのか。
教育長	夏休み明けから3日間、全職員で各学校の子ども達1人1人の出欠状況や生活の様子を注視し、情報共有を行いながらSOSのサインや変調を見逃さないようにしている。
三澤	1人1台のタブレット端末がいじめの引き金で小学生の自殺も起きている。学校ネットパトロールなどある程度のチェックは必要では？
教育長	インターネットで情報を収集する際、「いじめ」「自殺」等の入力を確認されると情報セキュリティ会社より連絡が入るシステムである。
三澤	友達がいじめを受けているのを見たり、ネット上でいじめを目撃した場合、また子ども同士で相談を打ち明けられた場合の対処法などの指導や教育の実施は？
教育長	SOSを見聞きした時は、ためらわずに先生に話すことを徹底している。まずは子ども達との信頼関係を作ることが一番大切だと考えている。

みさわの視点



夏休み明けは子どもの自殺者数が一番多い時期です。令和6年は過去最多。いかなる理由があってもこのようなことはあってはなりません。今、ネット上の誹謗中傷、いじめ等は大きな社会問題。いじめ・不登校数は過去最多を推移。同時に教職員の療休者数も最多を推移している現実を見ると、①とにかく学校現場の人手が足りない②教職員におりてくる業務が多すぎる③子どもによりそい、声を聞き、手厚くサポートすることが困難な状況。これが現実です。まずは教員、支援員など一人でも多く配置できるよう各方面で全力で取り組むことが、子ども達との信頼関係を作り命を守る最善策です。

ボランティア活動する市民に対し地域通貨ポイントの提供を！

令和6年 第4回 12月定例会

三澤	キャッシュレス決済が進む中、デジタル地域通貨を導入している自治体についてどのように認識しているか？
企画部長	地域内における電子通貨による決済システムが地域経済や地域コミュニティの活性化を図る手段の一つになると認識している。
三澤	他の自治体ではデジタル通貨と連携し、プレミアム商品券やプレミアム旅行券、子育て応援ギフトなどポイントとしてアプリで提供している。このようなデジタル通貨の導入検討はあったか？
企画部長	現在、周辺自治体での導入状況やデジタル地域通貨のメリット・デメリットについて情報収集を進めている。
三澤	健康運動普及活動や健診などへの参加及び地域のボランティア活動に参加する市民に対し、健康増進と経済活性化の観点からも、市内限定で使える地域通貨ポイントのようなインセンティブを提供できないか？
企画部長	以前、地域通貨ポイントではないが、市で募集した6件のボランティア活動に対しインセンティブを提供した事例がある。

みさわの視点



スマートフォンやICカードを利用し、デジタル通貨をチャージ(貯める)できる機能を利用して、紙ではなくプレミアム商品券をデジタル金券で配布したり、子育て給付金や地域内でのボランティア活動にボランティアポイント、健診や健康運動など健康的な活動には健康ポイントなど、他自治体でも様々な取り組みが始まっている。利用範囲を市内に限定することで市外流出を防ぎ、地元企業や商店での消費を増やす。子どもから高齢者まで住民同士のつながりが減少する今、地域コミュニティの活性化と共助関係の復活につなげたい！

筑西市の交通弱者のための交通網改善を！

令和7年 第1回 3月定例会

三澤	朝夕の混雑時は除き、日中乗車する方がほとんどいない時間に、75歳以上の後期高齢者や障害のある方、介護認定を受けている方など一定の条件を付け、無料で何度でも利用できるサービスを行ってはどうか。
都市整備部 長	無料乗車券の配付については障害者手帳の交付を受けている方と小学生以下の運賃は半額、そして未就学児は無料である。小学校公共交通フェアなどでは無料乗車券を配布しており、筑西・下妻広域連携バスでもイベント時に無料デーを実施している。議員提案の利用者を増やす取組は今後検討してまいりたい。
三澤	「バスに乗りたくてもバス停まで遠くて歩けないよ」というご高齢者の悲痛な声を聞いている。1キロメートル先にあったら諦めてしまう方も、300メートル先にあれば乗ってみようか？という気になる。利便性を上げるためにも、バス停留所の増設という考えは。
都市整備部 長	需要が見込め、安全性の高い場所を設置場所として決定している。停留所を大幅に増設した場合、速達性に加え、鉄道などほかの公共交通機関との連絡が難しくなり、逆にバスの利便性を損ねる可能性がある。停留所までの移動が難しい方につきましては、「のり愛くん」のご利用についてもご検討いただきたい。
三澤	関東鉄道常総線の活性化ということでこれまで常総線活性化支援協議会というものがあったと聞いた。内容は。
都市整備部 長	常総線活性化支援協議会につきましては、関東鉄道常総線の活性化と輸送設備などの維持を図るため毎年1回以上、茨城県、沿線の市、商工会議所、商工会、利用者の代表、関東鉄道株式会社が一堂に会し会議を開催している。この会議では利用者を増やすためのイベント開催や、輸送設備の改修計画等について議論をしている。
三澤	関東鉄道常総線の電化、複線化、高速化に向けての進展というのは、その協議会の中でなかったのか。
部長	関東鉄道における電化、複線化、高速化については、費用面で非常に多額の費用がかかるということで、関東鉄道としては難しいという答弁を伺った。特に石岡市に地磁気観測所がある影響で、電化する場合はさらに費用がかかる。費用面として複線化というのは難しい状況である。

みさわの視点

- ①筑西市では、高齢化率が34%を超え、すでに超高齢化社会が始まっている。免許の返納者が毎年300人前後、可住地面積が広く移動には自家用車が必須であり、高齢者の生活の足である交通問題は喫緊の課題です。市内路線バスやデマンド交通のり愛くんの利用状況への冷静な分析と、市民の声をもとに部署を超えての改善策を急ぐべきです！
- ②人口減少への不安の声が上がる中、二地域居住促進法に従い、わが市への新たな担い手確保や新たなビジネスの創出、また災害や経済的な観点から見える二地域居住のメリットを伝えるチャンスが来ています。リモートワーク環境整備やT Xを活用して東京圏までの時間短縮(高速化)など地方移住への関心が高まる今、具体的な計画策定が必用です！

【事務所】筑西市一本松 1234-1 TEL・FAX 0296 (25) 5838
E-mail misawa.338@docomo.ne.jp

【自 宅】筑西市玉戸 1336-317

Facebook 更新中

三澤 隆一



三澤 隆一

検索